

令和3年度「小・中学校ジョイントスクール推進事業」白銀中学校区実践計画書

事務局 八戸市立白銀小学校（担当：教頭 小笠原一彦）

1 主題（8年次）

『自主的な生活・学習習慣の形成をめざす小中学校・家庭・地域連携のあり方』
～地域密着型教育とともに、個人の能力の向上、人と人とのふれあいを～

2 主題設定の理由

昨年度、白銀中学校区3校とも次の3点について共通して取り組み、以下の反省が出された。

□重点指導項目①：「気持ちのよいあいさつや返事、はきものをそろえることができる」

3校によるあいさつ運動の取組、民生委員児童委員協議会の協力によって、児童生徒のあいさつや返事は、年々よくなってきている。はきものをそろえるについては、意識は高まってきているが、さらに家庭や地域社会と連携した取組を推進することが望まれる。

□重点指導項目②：「家庭学習ができる」

昨年度から、家庭学習における共通実践として、4項目を決めて取り組んでみた。4項目の中で、それぞれの学校における課題が明確になり、次につながる実践となった。今後も、効果的な実践を共通して行うことにより、よりよい学習習慣の確立を目指すことが望まれる。

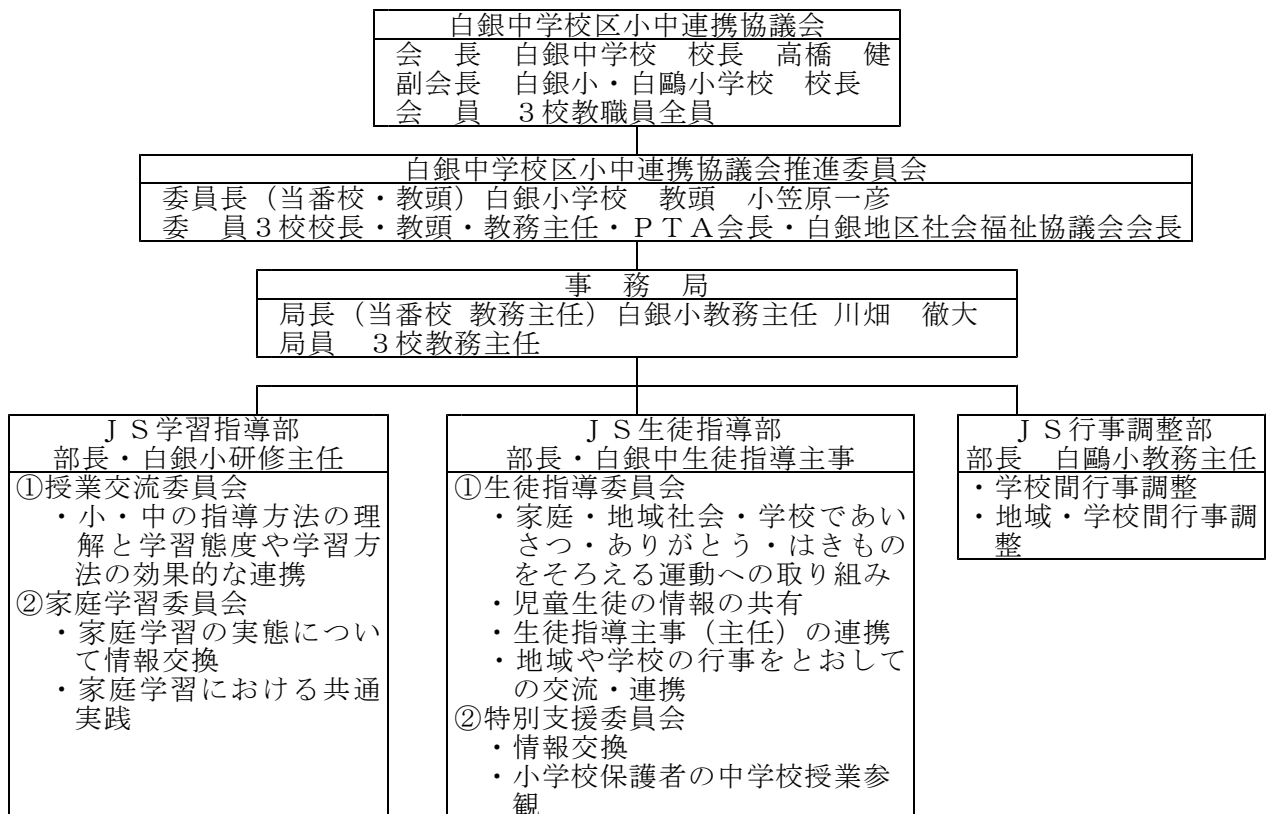
□重点指導項目③：「話をしっかりと聞き取り、はっきりと話すことができる」

学習指導部の授業交流委員会において、昨年度は重点的に「話す・聞く」を指導したことにより、各校の学校評価結果からも「しっかりと聞く」「はっきり話す」態度に向上が見られたことが分かった。今後も、自分の考えを伝えるために、書く活動も取り入れながら「しっかりと聞く」「はっきり話す」ことを中心に、指導する必要がある。

また、「地域密着型教育」の地域学校連携協議会において、「地域ぐるみの教育活動を展開し、明るく活力のあるまちづくりに貢献する」、①あいさつ ②ありがとう ③はきものをそろえるの3つを家庭・地域社会・学校において実践することで「あいさつ・ありがとうがいっぱいの白銀まち」づくりに協力して取り組むこととする。さらに、小・中学校ジョイントスクール推進事業の組織と地域学校連携協議会の組織を完全一体型とし、「学校づくりの共有」と「まちづくりの共有」を連携しながら、コロナ禍においても進めることとする。

そこで、今年度も個人の能力の向上と、学校間・家庭・地域とのふれあいを『目指すべき二つの姿』とすることを踏まえ、主題を「自主的な生活・学習習慣の形成をめざす小中学校・家庭・地域連携のあり方」とする。生徒指導部では家庭・地域社会・学校と連携した「あいさつ・ありがとう・はきものをそろえる運動」の推進、学習指導部では、「聞き方」「伝え方」の指導と家庭学習における共通実践を行うこととする。授業交流委員会では、共通実践に向けて取り組むこととする。

3 小・中学校ジョイントスクール推進事業を推進するための組織



4 中学校区の重点指導項目

白銀中学校区 重点指導項目

- ・気持ちのよいあいさつや返事、はきものをそろえることができる。
- ・家庭学習ができる。
- ・話をしっかりと聞き取り、自分の考えを伝えることができる。

5 今年度の小中連携の具体的な計画

月	日 (曜)	内 容	備 考
5	1 1 (火)	J S 第 1 回推進委員会	白銀中学校
5	2 6 (水)	J S 全体会・【第 1 回地域学校連携協議会】	白銀中学校
8	2 0 (金)	J S 分科会 I	白銀小学校
1 1	1 7 (水)	J S 分科会 II 【第 2 回地域学校連携協議会】	白銀小学校 白銀中学校
1	1 4 (金)	J S 第 2 回推進委員会	白銀中学校
1	2 0 (木)	【第 3 回地域学校連携協議会】 (3 校合同歓送迎会打合せ)	白銀中学校
2	2 (水)	小・中情報交換会	白銀小学校
2	3 (木)	小・中情報交換会	白鷗小学校

※ 2 月 白銀中学校校長より白銀小・白鷗小各 6 年生へ「中学校へ向けた講話」予定